

学習内容報告書 フォーマット

学校名	福井県小浜市立内外海小学校
授業者	津田 恭明

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

Let's challenge! 海ゴミをへらそう! ～未来の内外海の海について考えよう～

1-2. 学年

5年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、国語、社会、理科

1-4. 単元の概要

海に面している内外海地区では、海洋漂着ゴミの処理問題を抱えている。特に、冬場に大陸から大量のゴミが流されてくることに、地域住民の方だけではなく、行政機関も頭を悩ませている。

昨年度の5年生は、「海ゴミ」「プラスチックゴミ」の調査を実施し、校内で発表を行い校内の児童に強い印象を与え、地元内外海地区の大きな課題として「海ゴミ問題」「プラスチックゴミ問題」を考えた。

そこで、今年度初めの授業でも児童の強い希望から海ゴミ拾いの活動だけでなく、「海ゴミ」「プラスチックゴミ」の調査を引き継ぐこととなった。1年間、子どもたちの「ふるさとを愛する心」を育み、「未来に内外海のきれいな海」を残すために地域住民や関係機関との交流や、持続可能な地域での活動に取り組む。学習していく過程で、地域の良さや課題を再発見し、成果や課題、解決策を発信することを目指す。

また、児童から「海ゴミを使って商品を作る」「海ゴミを使った商品の販売活動がしたい」などの意見が挙がった。そのため、リサイクルだけでなくアップサイクルの視点を取り入れ、海ゴミの有効活用について学習を進め、プラスチックゴミを使用した商品開発に取り組む。その際、販売者の責任や購買意欲をかき立てる商品開発が行えるように、ゲストティーチャーに来校してもらい、指導・助言を受けながら学習活動を展開する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

実際に、内外海地区の海ゴミを拾う活動に参加することを通して、地元や世界の海ゴミの実態を知り、海ゴミ問題やプラスチックゴミ問題を児童が自分事として考えることができるようにする。また、内外海地区にあるものや海ゴミを使って商品（製作物）をつくることで、新たな内外海地区の魅力を見つけ、その成果や課題を発信する計画を立てる。さらに、内外海地区の自然に触れるとともに、空きビンや海ゴミなどを活用して商品開発を行い、リサイクルやアップサイクルについて考える。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ふるさとを愛する心、内外海地区の良いところを発見する力
- 課題を見つける力、創造力
- コミュニケーション力、情報発信力

1-7. 単元の展開（全35時間）※残りの8/35時間は、学習発表会の準備や学年のまとめに活用。

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
6	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題と学習計画の設定 ・県立若狭高等学校実習船「雲龍丸」乗船体験 ・定置網漁についての事前学習 ・宇久地区の定置網漁体験学習 ・学習のふり返し、まとめ →ワークシートやスライドにまとめ、学級で交流。	福井県立若狭高等学校海洋学科の協力 ・船上で海洋ゴミの実態、マイクロプラスチックなどのゴミの船への被害、プラスチックの密度の実験。 宇久定置網(有)の網元 浦谷俊晴さん他 ・海洋ゴミが定置網にかかると網が傷む。海洋ゴミに絡まって命を落とす生き物がいる。
4	海ゴミに関する事前学習・校外学習の事前学習 堅海地区の海ゴミ拾い、海ゴミの分別作業 ・県内企業によるプラスチックゴミを活用したアップサイクルの取り組み ・株式会社 RICOH によるプラスチックの選別カメラを利用した分別体験 (拾ってきたプラスチックゴミを種類別にする) ・学習のふり返し・まとめ →ワークシートやスライドに学びや感想をまとめ、交流。	アノミアーナ代表 西野ひかるさん 福井テレビ 北嶋伸希さん ・若狭地域の海ゴミについての説明 TONKAN terrace 代表 黒田悠生さん ・タイル、アクセサリなどの紹介。リサイクルしたプラスチックを使った実演。 株式会社 RICOH 吉岡信治さん ・プラスチック製品の選別カメラを使用した分類の実演。
4	海ゴミを利用したハーバリウム作り① ・事前学習（ハーバリウムとは、何か？） ・内外海にあるもの、海ゴミを使い、製作。 ・学習のふり返し・まとめ →ワークシートやスライドに学びや感想をまとめ、交流。 ★学習発表会で保護者にマーケティング調査を実施	市内の雑貨店アトリエ YUKI の下仲直美さん ・ハーバリウム作りの指導・助言。 【材料】 貝がら、シーグラス、海藻、砂、石、海ゴミ、乾燥植物、ビーズなど 【課題】 海ゴミや内外海をアピールする材料の不足。リサイクルビン使用のため、オイル漏れが心配。
3	勝山市成器南小学校6年生とのオンライン交流会 ・「海ゴミ削減」に関する割り箸袋のデザインを考える。 	アノミアーナ代表 西野ひかるさん ・アドバイザーとして、本校の発表内容にコメントと、今後の学習に向けての助言をいただく。 (海ゴミを活用した商品開発、販売活動について)
8	田鳥地区の海ゴミ拾い ・若狭地域の漂着ゴミの実態に関する学習 ・児童が拾った海ゴミを使ったビーチコーミング ・近辺の海藻の役割や種類、植生について学習。 拾った海ゴミの分別作業 ・発泡スチロール、漁具の分別作業。 学習のふり返し・まとめ	福井県海浜自然センター 前田さん ・嶺南地域の海岸漂着ゴミの実態。 ・海岸によって、漂着ゴミの量が異なる ・海藻の役割や種類、植生について アノミアーナ代表 西野ひかるさん他 ・地元の高校生、地域の方々、関係機関と作業。 【課題】 日程などの関係で計量が困難なことも。

3	<p>海ゴミを利用したハーバリウム作り②</p> <ul style="list-style-type: none">・商品価値が高くなるように、お客さんの立場に立って作品を製作する。・学習のふり返り・まとめ <p>→サイトに学びや感想をまとめ、地域に発信予定。</p>	<p>市内の雑貨店アトリエ YUKI の下仲直美さん</p> <ul style="list-style-type: none">・ハーバリウム作りの指導・助言。 <p>【材料】 貝がら、シーグラス、海藻、砂、石、海ゴミ、乾燥植物、ビーズなど</p> <p>【課題】 オイル漏れ、原価計算などをどうするか。</p>
---	--	---

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 3・3 時間中の 1, 2, 4, 5 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- 内外海地区の自然物や空きビン、海ゴミなどを活用することを通して、リサイクルやアップサイクルについて考え、作品を製作する。
- 内外海地区のものを使って製作物をつくることで、新たな内外海地区の魅力を見つけるとともに、発信する計画や販売する計画を立てる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>●海ゴミハーバリウム作り①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーバリウムの作り方や注意点を聞き、作品を製作する。 →液がもれ出したり、自然界に流れたりすると、環境に良くないことを学んだ。 →底に粉々になった貝殻や砂を入れ、それを土台にして海ゴミや乾燥植物などを入れてデザインした。 →貝殻や海ゴミの配置、海藻にビーズをさして浮かせるなど、大人が発想しないようなアイデアがたくさん見られた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>●体験学習のふり振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくできたこと、うまくできなかったこと、課題、改善点などを各自でまとめ、第2回につなげる。 ・学習発表会でマーケティングを行うため、アンケートを作成。 <div style="text-align: center;">  </div>	<p>●市内の雑貨店アトリエ YUKI の下仲直美さんの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や海ゴミ拾いで拾ってきたものの他に、地域の浜に落ちていた海藻なども入れ、海をアピールできるような作品に仕上がるように説明する。 ・ピンセットや紙コップを準備し、ビンの中に慎重に配置をしたり、オイルを入れたりするように注意をうながす。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【評価】内外海地区の良さや海ゴミ問題を発信するために、商品開発に向けてオリジナリティを出したり、工夫したりしている。（観察・作品評価）</p> <p>※オイルをこぼしたり、下水に流したりしないように注意をうながす。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海ゴミを使う量が少なかった。 ・海藻を使うと全体的に黒っぽい色になってしまう。 ・明るい色を使っていく方が良い。 ・オイル漏れをどうやって防いでいくか。

●海ゴミハーバリウム作り②

・前回の経験を生かし、商品としてお客さんに買ってもらえるような商品を製作する。

→プラスチック製の釣り用ルアーや海外製の漁具を使って、カラフルな色合いの作品を製作した。



●体験学習のふり返り

・前回の反省やマーケティングの結果を生かし、海ゴミを活用した作品製作ができた。

・海藻を使ったので、黒っぽい色になったけど、ビーズとかを使って、カラフルにすることができた。

・売れるものができたら、商品の紹介や内外海のアピールをしないとけないと思った。

●市内の雑貨店アトリエ YUKI の下仲直美さんの指導

・第1回の反省点を踏まえ、田鳥海岸で拾った海ゴミや海藻を多く使いように指示する。



【評価】第1回の反省を生かし、商品開発や商品販売に向けてオリジナリティを出したり、工夫をしたりしている。(観察・作品評価)

【課題】リサイクルビン使用のため、オイル漏れを十分に防ぐことができなかった。

原価計算や販売場所の確保を、今後どのように取り組んでいくか。

3. 今回の活動の自己評価

年度当初は、子どもたちの関心は、「海ゴミ」や「プラスチックゴミ」よりも、地元のものを使った商品開発・商品販売の方に気持ちが向いていた。しかし、校外学習に行ったときに、海に浮いているゴミの多さやマイクロプラスチックや自然ゴミなどが、船のエンジンを冷却する部品を壊してしまうおそれがあること知り、大きな衝撃を受けていた。また、海底には、海水よりも密度の重いゴミがたくさん沈んでいることを知り、課題として考えるようになった。

その後、4回、海ゴミを拾う活動に取り組み、地元の海にたくさんの海洋漂着ゴミが流れ着いていることを体感し、「きれいな海を守っていきたい」という思いが出てきた。たくさんの人に知ってもらえるように、学習発表会や勝山市の小学校との交流会、ハーバリウム作りなどに熱心に取り組む児童の姿が見られた。他者との関わりの中で、少しずつだがコミュニケーション力も向上した。また、各場面でふり返りを積み重ねていくことで、新たな良さや疑問・課題が生まれていき、次の段階の課題やねらいを意識しながら、学習に取り組むことができた。次年度も「海ゴミ」や「リサイクル・アップサイクル」の活動を継続したい。

4. 今後の課題

年間の活動を通して、教師自身がもっと地域に出向いて、地域の自然や歴史、文化などに触れながら地域の特色や課題を知っていくことが大切だと感じた。子どもと一緒に教師も地域のことを学んでいく中で発見した課題を共に学び、解決していこうとする姿勢が大切だと感じている。

また、地域の人材をゲストティーチャーとして活用するなど、地元の人から良さや課題を話してもらう場を多く設定し、地域全体で「海ゴミ」や「プラスチックゴミ」の課題解決へとつなげたい。

商品開発や商品販売に関しては、今年度は「原価計算」「利益計算」「商品の安全性」などについて、十分に検討できなかった。子どもたちが開発した商品として、販売活動を展開できるように、法律や経済の視点など、専門の業者の人へのヒアリングを行ったり、アドバイザーとして招いたりする方法も検討していきたいと考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

製作したハーバリウムを1点送付します。

郵送の際、オイル漏れがある場合もあります。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。